

資産運用レポート：華族の株式投資（2022年版）

1 はじめに

下図をご覧ください。かつての有力華族であった旧岩国藩主吉川家（きっかわけ）の資産アロケーションです。

総資産の3/4を株式が占めており、他には土地、債券に投資しています。現預金などの割合はわずかです。

トマ・ピケティ教授は著書『21世紀の資本』で次のように述べています。

不動産の重要性は富の階層が上がると激減する。特に最大級の財産だと、株式やパートナーシップによる持分がほとんどすべてとなる。住宅は中流階級と小金持ちに人気の投資だが、本当の富は常に金融、事業資産が主体なのだ。

この当時、全国レベルでも有数の資本家だった吉川家は、まさにピケティ教授が指摘しているとおりの資産アロケーションを行っていたのです。

私たち個人投資家としては、激動期の我が国にて、資本家がどのような株式投資を行い、いくら儲けていたのか、大いに気になります。

今回の資産運用レポートでは、2019年1月号の続編として、吉川家の株式投資について取り上げます。

★1922年（大正11年）における吉川家の資産アロケーション

